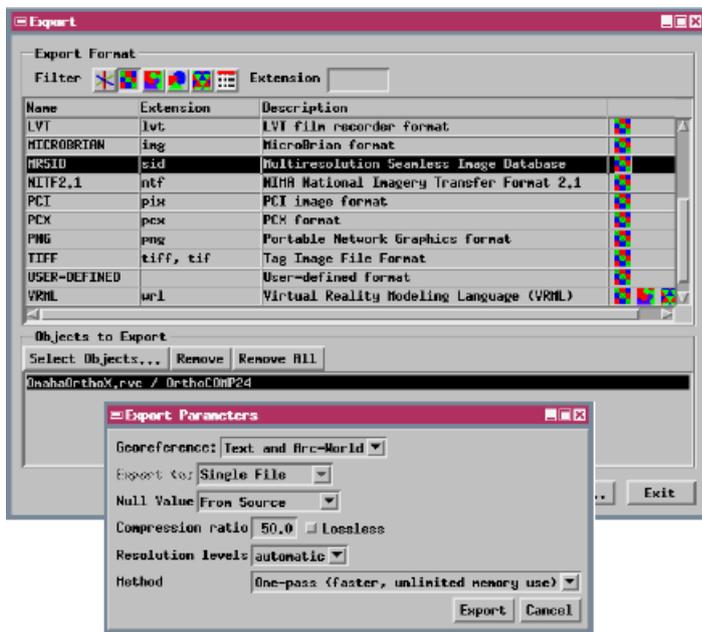


MrSID ファイルの作成

MrSID (Multiresolution Seamless Image Database) のファイル形式を選択することで、画像の質を保ったまま、大きな画像を高圧縮してエクスポートできます。LizardTech 社の MrSID フォーマットは、JPEG2000 に使われているのと似たウェーブレットベース画像圧縮技術を使い、異なる解像度を持つ多重画像レベルにファイルを埋め込みます。MrSID へのエクスポートでは、損失なし圧縮や、指定された圧縮率での損失あり (非可逆) 圧縮の選択が出来、さらにファイルへ入れる際の解像度レベルの数を選べます。また、エクスポートは圧縮ステージでの2つのメモリ管理方法を提供します: 1つは、処理がアクセスするメモリ量を制限しない高速なワンパスの方法で、もう1つはメモリの使用を制限してとても大きい画像の圧縮を可能にする、低速なツーパスの処理方法です。MrSID へのエクスポートは Windows と Mac OS X、Linux プラットフォームで利用できます。



MrSID にエクスポート (50:1 非可逆損失圧縮)



元ファイル (24 ビットカラー合成)

MrSID フォーマットへエクスポート出来る画像量は、LizardTech 社の圧縮カートリッジシステムを使って計測します。一定量の画像 (非圧縮時のサイズを基準とする) のエクスポートを可能にするカートリッジや制限無しのカートリッジを購入出来ます。

座標参照系の情報はエクスポートする際に、自動的に MrSID ファイルに埋め込まれます。MrSID は欧州石油調査グループ (EPSG) データベースが提供する数千もの座標参照系をサポートしています。TNTmips は ESPG 座標参照系以外の座標系もサポートしています。MrSID のエクスポートで問題を起こさないようにするには、EPSG がサポートする座標参照系を使用すると良いでしょう。このような座標状況の埋め込みの他、座標参照情報を Arc/Info World ファイルや MapInfo.tab、説明用テキスト、Google KML フォーマットなどの MrSID 画像に付随する個別ファイルとしてエクスポートすることも出来ます。



JPEG2000 にエクスポート (50:1 非可逆損失圧縮)

1メートル解像度のナチュラルカラーオルソ画像に対して、50:1 非可逆損失圧縮でエクスポートした MrSID と JPEG2000 の比較。ソース画像 (中央) は非圧縮。尺度として、画像の左上隅のテニスコートに注目してください。この例で MrSID と JPEG2000 は、同等の色の正確さと画像細部を保持しています。